



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

小さなふるさと

高校を卒業して大阪で8年、東京で20年、もうすぐ30年が経とうとしとる。忘れてしまった愛南町の景色や言葉もある。年々ふるさとが恋しくなるのに。

昨年10月から毎月17日に高円寺にある居酒屋で愛南町出身の方や所縁のある方が集まる“愛南の日”が開催されるようになった。愛南町出身の大将が地元から旬のものを取り寄せ料理してくれる。ただの飲み会のような会やけど、年齢も職業もまったく違う人たちが集まると、そこで聞く愛南町の情報やその他の分野の話は面白いし、人と会って話すと自分の求めとるもの以上の情報が得られて有意義。私にとって東京にある“小さなふるさと”みたいな場所になりつつある。

そして、11月26日には“TOKYOあいなん交流会”という100人規模の会が開催されるとのこと。ふるさとのつながりは不思議な力がある。会って話すだけで励まされた気持ちになる。そして情報交換や出会いはもちろんやけど、挑戦したいことややりたいことがあれば参加することで道標がもらえるんじゃないかなと思う。そんなの何もなくても何かを得られると思うし、私のように“小さなふるさと”が見つかるかもしれない。こういう会が各地で開催されれば町が得られる情報も多くなるはず。増えたとええなあ…。まずは東京から。参加を希望される方は愛南町役場商工観光課へ。 (テノヒラkiku)



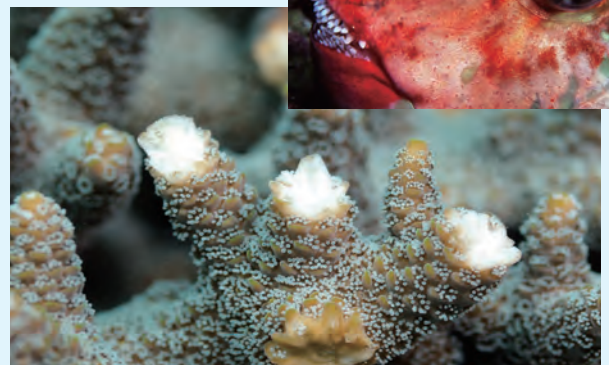
本日！海日和！！ vol.156

「誰が、かじった？」

枝が伸びるように成長するエダミドリイシは、愛南町を代表するサンゴの一つだ。一面に広がるサンゴの中を気持ちよく泳いでいると、枝先が折れて白くなっていることがある。よく見ると、先端をペンチで切り取ったようになっている。

サンゴを切り取ったのは、ブダイの仲間である。沖縄ではイラブチャーと呼ばれ、好んで食べられる。美味しい魚なのだが、残念ながら愛南町では人気がない。熱帯魚のような鮮やかな色彩が、食欲を減退させてしまうのかもしれない。

ブダイの好物はサンゴだ。硬いサンゴをペンチのような歯で上手にかじり取り、柔らかい部分だけを消化して、硬い部分は排泄する。その量は膨大で、サンゴ礁の美し



【ブダイの食べ跡】

い砂浜は、ブダイによって作られるとも言われている。

ブダイが食べたためにサンゴが減少してしまったという報告はないので、うまくバランスが取れているのだろう。サンゴと共存する方法をブダイから学びたいものである。

(撮影地：鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる